



和白干潟自然観察会（貝の浄化実験）

### 夏休み!

## 和白干潟の生きものやハマボウを見る会

夏の和白干潟にはカニや生きものたちがいっぱい! 海の広場から唐原川河口を通り、牧ノ鼻までの海辺を歩きながら観察しましょう。牧ノ鼻海岸では岩場の生きものたちにも会えますよ! 牧ノ鼻海岸には黄色いハマボウの花がたくさん咲いています。ハマボウの木はどのくらい大きくなったかな? 皆で見にいきませんか! 観察のあとはお掃除もしましょう! 和白干潟は「にほんの里100選」に選ばれ、環境省の「国指定鳥獣保護区」で「ラムサール条約」の登録候補地です。生き物の宝庫の和白干潟を、みんなで守っていきましょう!

とき: 7月23日(日) 13:30~15:30 受付: 13:15~  
大潮 干潮15:54 満潮9:22

集合: 和白干潟・海の広場(和白4丁目海岸)  
西鉄貝塚線 唐の原駅より徒歩5分 JR和白駅より徒歩10分

観察場所: 和白干潟 海の広場~牧ノ鼻海岸

講師: 藤井暁彦氏(九州環境管理協会)

参加費: 無料 雨天中止、小雨決行

持ち物: 水筒、軍手、筆記具、(あれば) 双眼鏡、ルーペ  
服装: 歩きやすい服装、長そで、長ズボン、帽子、長靴

主催: 和白干潟保全のつどい(和白干潟を守る会ほか)

問い合わせ: TEL: 090-8412-2663(山之内)



ハマボウの花

# 「第20期 和白干潟の自然観察ガイド講習会

『牧ノ鼻にはどんな植物があるのだろう!』(高田 将文)



6月4日(日)17名がきりえ館に集合し、山本代表が「観察会ガイドのスキルアップを図るための講習会です。講習会で牧ノ鼻は今までほとんど行っていません。今日は野村郁子先生が植物を紹介してくださるので、ワクワクしています」と挨拶しました。講師の先生から、牧ノ鼻の状況について「上の方は以前森のようでしたが、ブルドーザが入り、自然が破壊されています。下から見るとクス、タブなどを代表とする照葉樹が残っています。牧ノ鼻は照葉樹林の下がすぐ海なので面白いです」と聞いた後、フィールド学習に出発しました。海の広場で望遠鏡を見ると、ミヤコドリ4羽が私たちを迎えてくれました。アシ原入口付近では、イネ科

のハマニンニクが以前に比べ増えています。ハマニンニクは北方の植物で、和白海岸が南限だそうです。唐原川の濁筋(みおすじ)を渡り、唐原川左岸奥のアシが刈られている場所に着きました。刈られたアシの根元にシバナがあり、周りにロープが張られ「ここでしか見られないシバナの生育場所です」という港湾空港局の掲示がありました。牧ノ鼻ではタブノキ、ヤブニッケイ、シロダモ、クスノキなどの木々の解説を聞いて、海の広場付近では接しない木々が少しわかりました。ハマボウの群落に着いて、ハマボウが大きくなり増えており、中に入れなほど繁っていました。7月には花が開くのが楽しみです。牧ノ鼻で記念写真を撮り、きりえ館に戻りました。

まとめの後、お茶を飲みながら自己紹介をして交流をし、今村さんが「今日は潮風が爽やかで、緑がきれいでした。照葉樹が光っているのがよくわかりました。ハマボウが増えているのも見て、充実した時が持てました。これを機会に、新しい方も守る会においでください」と閉会の挨拶をして終わりました。最後に、山本さんのお宅の庭のちぎりたてのビワを頂いてから散会しました。(有江)

## クリーン作戦報告



4月22日(土)「干潟・湿地を守る日2017」

「春のビーチクリーンアップ2017」参加

148名参加、回収ゴミ:298袋。本日のクリーン作戦は、薄日がさすくらいでしたが、風が強いのでテントを張って準備をしました。初めに、参加者の前で干潟・湿地を守る日の宣言を読みあげて、皆さんの賛同を得てから、清掃の範囲や方法などの説明をして始めました。

数日前に大雨と春の嵐で空き缶が多くあり、自然ゴミも河口から海の広場前、和白方面にも多く寄せていました。今年も城東高校生と先生も団体会員として大勢で参加して下さいました。産大生も多く来てくれました。城東高校3年生美化クラブの生徒自ら、側溝付近に集まった大量のゴミを取り除いてくれました。最後の感想で「清掃後は、見違えるほど綺麗になったことを嬉しく思います」と言ってもらえました。本当に嬉しく思います。大勢ですと1時間余りで見違えるほどになりました。ガールスカウトの子にも、綺麗になったことに皆の頑張りを感じて貰えたようです。(田辺)



5月21日(日)ラブアース・クリーンアップ2017 参加



10名参加、回収ゴミ:56袋。ラブアース・クリーンアップは今年で26年になるそうです。海の広場前にはゴミは少なく、和白4区の町内会と子供会の皆さん約30名が同じ場所の清掃活動に参加して下さいましたので、皆さんには海の広場から唐原川河口右岸までのゴミ拾いをして貰いました。守る会は定例のクリーン作戦で出来ない市道のゴミ置き場から和白駅方面の和白3丁目海岸のアシ原や排水溝の先までを行いました。何時もしていない場所なので人工ゴミが多く、アシの上には昨年のアサミドリシオグサに枯葉等がからまったものもあり出来るだけ取り除きました。(田辺)

# 観察会報告（2017年5月～6月）（今村 恵美子）

## 5月19日（金）玄海風の子保育園かぼちゃ組（年長児）24名と先生4名



望遠鏡で鳥を見た子どもは「鳥がカイカイしよった」（足で頭を掻いているしぐさ）と報告していました。生きもの観察では捕まえたアシハラガニを裏返して、オスと卵をかかえているメスの違いを確認。望遠鏡をのぞくと「二人おった」とチュウシャクシギが2羽いたことを言い、サギを見て「かわいい白」と、子どもたちの会話が続きまして。今日は割合大きいアサリがとれ、次々と持ってきて浄化実験のペットボトルに入れていました。みんなで集まって干潟で見つけた生き物を確認しました。貝の浄化実験では、ウミニナが一番きれいになり、アサリのペットボトルも次にきれいになっていました。子どもたちがゴミを集めると、たくさんあった小さいゴミがなくなり、干潟はきれいになりました。山本さんのカモ笛を吹かせてもらって満足して「また来ようね」と言っていました。思っていたよりも暑くなく、ゆっくりと充実した時間が流れた観察会でした。（有江）

## 5月22日（月）香椎保育所さくら組（年長児）40名と先生4名と保護者7名

海の広場に到着した子どもたちは、早速「和白干潟の冒険に行くぞ」と言って意欲満々の様子。望遠鏡ではサギやカワウを見ました。アシ原の方へ歩きながら保護者の方が「以前はヘドロがあったが、最近はきれいになっていますね」と話してありました。砂洲でコメツキガニを探すとなかなか見つかりません。一生懸命穴を掘っていました。まとめの時、砂洲でコメツキガニを見つけることが出来なかった子に「コメツキガニよ」と差し出して見せると、「おーっ」と言いながらカニをそっとなでて満足した様子でした。「カニのオスとメスとのハサミの違いは？」などの質問が出ました。「楽しかったですか？」と山本さんが尋ねると、「ハイ」と全員から元気の良い声が返って来ました。子どもも大人も干潟の自然に触れて満足した様子で唐の原駅に向かいました。保護者も和白干潟のことに関心を持ってきていることを嬉しく思い、家族揃って和白干潟を好きになってくれたらいいなと思いました。（有江）



## 6月19日（月）和白小学校4年生124名と先生4名



山本さんは地元で母校ということで、熱心に和白干潟のことを伝え、子どもたちも話をとても真剣に聞いていました。珍しいカラシラサギを見ることができました。海の広場できれいに咲いているハマナデシコを紹介して、アシ原に向かいました。アシハラガニを探しに入った子どもたちはカニを手にして得意顔で戻ってきました。少し沖でもコメツキガニを見つけるのが上手で、次々とカニを手にしていました。さらにアサリを探しました。1センチぐらいの小さいアサリはよくとれ、浄化実験用のペットボトルに入れました。和白川河口ではハクセンシオマネキを望遠鏡で見ました。「（ハサミを）振ってる、振ってる。たくさんいる」と大喜びでした。最後にとった貝や海藻をみんなに見てもらいました。貝の浄化実験も大成功でした。「和白干潟を守る会で大切にしていることは何ですか？」「土を掘った時に黒いのはなぜですか？」などの質問が出ました。カニのオスとメスの見分け方を教えてもらおうと、「あー、ほんとやん」「そういうことね」と納得していました。時間があっという間に経ったので、もっとゆっくり干潟で過ごせたらいいなと思いながら、子どもたちを見送りました。（有江）

## 第5回「唐原川お掃除し隊」（山・川・海の流域会議）報告

6月3日（土）真夏のような晴天でしたが、風がありさわやかでした。9時50分に唐原西公園に集合。香住丘自治協議会の町内会長さんたちが協力してください、総勢約50名の参加となりました。清水建設の方々がたくさんの塩飴持参で参加。九産大からは学外連携課の職員も参加され、長靴をたくさん貸し出していただきました。町内会からは胴長や鉤つきロープ、はしごをお借りしました。松田代表の開会挨拶の後、唐原川下流を3班に分け、1班は国道に近い「柳が坪橋」付近で香住丘町内会長グループ、2班はその下流「外輪崎橋」付近を九産大生、3班はさらに「河口まで」とし、和白干潟を守る会と清水建設や町内会が担当しました。1班は子ども用自転車3台も泥の中に埋まっていたりなかなか引き出せず、ツルハシを持ってきてようやく出すことができました。下流ではバイクが見つかり、盗難バイクの可能性もありパトカーで警察官が駆けつけ、現場を確認する騒ぎになりました。お掃除し隊も5年目となり、たくさんの参加者が手際よく活動しました。きれいになった川面を涼しい風が吹き抜け、それぞれ現地解散しました。（今村）





## ハマヨモギ (フクド) (キク科)

西日本の海にそそぐ川口に群生する2年草。茎は高さ30～80cmで、太くて直立します。葉は深く裂け、厚くて葉先は丸っぽく、ヨモギの葉を厚くした感じです。葉をもめばちょっとレモンのようなにおいがします。秋に多数の頭花がつくそうですが、私はまだ見ていません。和白干潟の唐原川河口左岸奥の溝の沿岸にフクドがあるのは知っていましたが、今回この場所のアシ原が清掃のために刈り取られてしまい、シバナとフクドが目立ってきました。シバナは福岡県絶滅危惧B類で綱で囲ってもらいましたが、フクドはどうかを調べました。フクドは絶滅危惧種にはなっていませんでしたが、和白干潟ではここにしか見られない植物です。大切にしたいですね。「フクド」は日本の方言フクドをそのまま種名に用いたものだそうです。和白干潟沿岸にはまだまだ知らない植物があるようですね。



ハマヨモギ



オキシジミ

## オキシジミ (マルスダレガイ科) 殻長・殻高：ともに5cm。

殻はほぼ円形で厚く、殻表面は紫褐色か橙黄色。日本の関東以南、中国大陸まで分布し、干潟や水深20mの砂泥底に生息しているそうです。和白干潟ではアサリを掘っていると、オキシジミも良く見つかります。身は赤みがあり食べられますが、砂を含んでいることが多いようです。和白干潟のカラスはこのオキシジミが好物です。たくさん採って沿岸のコンクリートに落として割って、身を食べているようです。沿岸のコンクリートの上に貝殻がたくさん落ちています。アサリより大きいので、食べがいがあるのでしょうか。

## カワウ (ウ科) 全長82cm。

留鳥として1年中和白干潟で見られますが、冬に多く見られます。体全体が黒く、くちばしの根元は黄色で、その外側は白いです。繁殖期には頭部に白く細い羽毛が生えて白髪のように見えます。以前は夏期にはあまり見られませんでした。最近では30羽程は常時いるようです。近年博多湾の鶴来島(無人島)で繁殖が観察されており、和白干潟に近い島などでも繁殖しているのかもしれませんが。冬には5000羽の大群が和白干潟にやって来て、集団で漁をしている姿は迫力があります。また棒杭や廃船の上で羽を広げている姿がよく観察されます。各地でカワウのフン害が報告されていますので、和白でも注意が必要です。



カワウ

## 夏の和白干潟のしぜん情報

**アシ原：**アシは丈高く伸びて鮮やかな緑色です。ハマナデシコやハマゴウの花が咲きます。牧ノ鼻の海岸にハマボウの黄色い花がたくさん咲きますが、海の広場にも広がっています。5月に唐原川左岸のアシ原がゴミ清掃のため刈り取られ、シバナも一緒に刈られました。回復して穂をつけることを願っています。



ウミニナ

**干 潟：**ウミニナの仲間が干潟上を埋め尽くすほどに増えています。浅瀬ではマメコブシガニ。干潟にはたくさんのコメツキガニの巣穴と砂団子。和白川河口や奈多のクリークではハクセンシオマネキ。アシ原付近にはアシハラガニ。和白干潟は生きものたちでいっぱいです。

**水 鳥：**夏鳥として渡ってきたコチドリが繁殖しています。オオヨシキリはアシ原で繁殖しています。近年はコアシサシの姿が少なくなりました。繁殖地の減少でしょうか？サギ類は夏期に多く見られます。6/21にもミヤコドリが4羽残っており、ミヤコドリは越夏するかもしれませんね。

多自然川づくり、福津市上西郷川見学



山・川・海の流域会議主催の新春講演会で「多自然川づくり」の事例を紹介された現地を、5月16日(火)に11名で見学。

福津市と九州大学と地域住民が8年間にわたり協議し、連携して自然の営みを生かした川に再生した努力が実を結んでいました。小川にはセリなども見られ、大きな石の陰で淵ができていたり、子どもたちが遊びやすい工夫や生き物が生息しやすい工夫がされていました。きれいな川の水に見えましたが、水質検査では和白干潟に注ぐ唐原川の水質の方が良かったのには驚きました。立花山からの恵みで違うようです。住民が参加し自然再生することで、川の危険性や良さを理解することができるということを実感できました。多くの自治体に取り組んでいけば、子どもたちに素晴らしい財産を残せると思いました。

唐原川左岸でアシ原一帯の刈取りにより貴重植物シバナに危機

5月15日、付近の町内会がラブアースクリーンアップのゴミ清掃の日のためにアシを刈り取るよう港湾空港局に依頼したため、唐原川左岸のアシ



原一帯が刈り取られていたことが判明しました。福岡県絶滅危惧 B類のシバナや環境省絶滅危惧類のハクセンシオマネキ、フトヘナタリなどの生息地でもあり、憂慮する事態になりました。付近住民がアシ原一帯の貴重な植物などについて知らなかったことが原因でした。和白干潟保全のつどいメンバーからの知らせで、港湾空港局環境対策課がただちに現地周辺をロープで囲い、貴重植物シバナの自生地であることが

ら立ち入らないよう掲示をしました。その後、シバナの根は残って茎が伸びていることを守る会も確認しました。このように、和白干潟の生態系について付近の住民の知識は充分ではありません。今後これを機会に、市民に和白干潟の重要性の情報を発信し、知ってもらうことが急務です。また行政内部でも情報共有し、みんなで環境を守っていききたいものです。

泡瀬干潟にホソエダアオノリ、アオサ大量発生で貝類大量死

沖縄県泡瀬干潟は開発により一部埋め立てが進んでいますが、2月から4月に「ホソエダアオノリ」が大量発生し、海底に生息する貝類が大量に死滅する事態となりました。このホソエダアオノリは6月にはほとんど消滅しましたが、貝類の死骸はたくさんあるそうです。昨年はカゴメノリが大量発生し同様な現象が見られ、今度は新たにアオサ(フタエグサ)の大量発生が見られるとのこと。泡瀬干潟を守る会では、原因を和白干潟の人工島建設によるアオサ(アナアオサ)の大量発生と同様ではないかと懸念しているようです。

博多湾で油流出事故、和白は無事

4月27日、博多湾内の箱崎埠頭で貨物船の火災による沈没があり、燃料の油が流出する事故となりました。市がオイルフェンスを張るなど被害が広がらないよう対策をとりましたが、油は西への潮流に乗って室見川河口ではアシにべっとり油が付き、潮干狩りを中止するなどの被害が出ました。30日には今津湾への影響は無いことが判明しました。守る会では事故のニュース後ただちに複数の会員が和白干潟付近の状況を見て回り無事を確認し、以後も和白干潟への影響はほとんどありませんでした。



2/14 ミヤコドリ21羽

気が付いたらあなたも電話してください!

海辺のゴミやアオサなどをとってほしい時・自分でゴミを拾った時

092-282-7146 (港湾空港局・理財課)

沖のアオサをとってほしい時

092-282-7153 (港湾空港局・環境対策課)



弱った野鳥を見つけた時

092-513-5611 (福岡県筑紫保健福祉環境事務所・地域環境課)

092-643-3367 (福岡県環境部・自然環境課・野生生物係)

\*\* お 願 い \*\*

干潟でのゴルフやラジコンの練習はやめましょう! とても危険です。

干潟で火気を使うことはやめましょう!  
(花火、バーベキュー、ゴミを燃やすこと)  
火災の危険があります。

犬のフンの始末は飼い主がしましょう!

## 2017年3月

- 3/1 (水) ~ 3/21 (火) 第3回和白干潟写真展(コミセン和白)
- 3/4 (土) 和白干潟通信122号編集会議
- 3/9 (木) 「和白干潟保全のつどい」会議参加
- 3/11 (土) 山・川・海の流域会議総会参加
- 3/12 (日) 和白海岸探鳥会(日本野鳥の会)
- 3/21 (火) 福岡市議会へ「博多湾・和白干潟のラムサール条約登録を求める」請願書を提出
- 3/25 (土) 定例会議・和白干潟クリーン作戦と自然観察
- 3/26 (日) 和白干潟通信122号編集会議
- 3/28 (火) 四季の和白干潟の自然(雁ノ巣海岸)リーフレット編集会議
- 3/31 (金) エコパークゾーン水域利用連絡会議

## 2017年4月

- 4/2 (日) 2017年春期シギ・チドリ調査1回目(今津)
- 4/4 (火) 観察会グループ会議
- 4/9 (日) 和白海岸探鳥会/2017年春期シギ・チドリ調査1回目(博多湾東部)
- 4/10 (月) イオン黄色いレシートキャンペーン/イオン2016年度分贈呈式
- 4/11 (火) イオン黄色いレシートキャンペーン
- 4/13 (木) 「和白干潟保全のつどい」学習会(雁ノ巣海岸)
- 4/15 (土) 日本湿地ネットワーク総会参加(東京都港区芝:港福社会館)
- 4/18 (火) 観察会案内状発送会
- 4/22 (土) 定例会議・干潟湿地を守る日2017と春のビーチクリーンアップ2017参加の和白干潟クリーン作戦と自然観察
- 4/25 (火) 2017年春期シギ・チドリ調査2回目(博多湾東部)
- 4/30 (日) 2017年春期シギ・チドリ調査2回目(今津)

## 2017年5月

- 5/2 (火) 四季の和白干潟の自然(雁ノ巣海岸)リーフレット編集会議
- 5/7 (日) 2017年冬期シギ・チドリ調査3回目(今津)
- 5/9 (火) 2017年冬期シギ・チドリ調査3回目(博多湾東部)
- 5/11 (木) イオン黄色いレシートキャンペーン/「和白干潟保全のつどい」会議参加
- 5/13 (土) 山・川・海の流域会議参加
- 5/14 (日) 和白海岸探鳥会(日本野鳥の会)
- 5/16 (火) 上西郷川見学会(山・川・海の流域会議)参加
- 5/17 (水) 香椎なんでも歴史クラブの和白干潟見学会
- 5/19 (金) 玄海風の子保育園の和白干潟観察会
- 5/21 (日) ラブアースクリーンアップ参加の和白干潟クリーン作戦
- 5/22 (月) 香椎保育所の和白干潟観察会
- 5/27 (土) 定例会議・和白干潟クリーン作戦と自然観察
- 5/30 (火) リサイクル講習会「紙袋作り」



## 干潟のつばやき「優しい人に拾われて良かったね！」

初夏の和白干潟、今日は和白干潟クリーン作戦の日です。浜辺やアシ原にはたくさんの人たちがゴミ袋を持ち、空き缶やペットボトルなどを拾っています。近くの城東高校の生徒達も参加しています。唐原川河口での出来事でした。男子生徒が浜辺に落ちていた飲料缶を拾い、缶を振って中の泥を出してゴミ袋に入れようとした時、缶の中で何かが動くのに気づきました。缶の中を覗くと、中には2匹のケフサイソガニが入っていました。生徒は缶を何度か振って中のカニを出そうとしますが、カニは仲々出てきません。あきらめてそのまま袋の中に入れられるのかと思った時、その生徒は、空き缶を干潟にそっと置き、見えないように上から泥をかぶせました。そのまま袋の中に入れられたら焼却場行きになるところだったケフサイソガニくん、優しい人に拾われて良かったね。(山之内)



カニさんの寝床？

## 2017年度日本湿地ネットワーク総会に参加

2017年4月15日(土)、港勤労福祉会館(東京都港区)にて11名の参加で、日本湿地ネットワーク総会が開催されました。総会では2016年度の活動報告のほか、2017年干潟・湿地を守る日についての話しもありました。2016年度活動報告の中では、重要湿地のラムサール条約登録などを求め環境省と交渉を行ったこと、また三番瀬と盤洲干潟のラムサール条約登録を求める環境省交渉を行ったことや、シンポジウム「東京湾の再生と葛西三枚洲のラムサール条約への登録を目指して」に参加したこと、辺野古の埋め立てと県外からの土砂搬入問題についての報告がありました。2017年度活動方針について中山さんから報告がありました。また全国各地の湿地保全団体による環境省などへの要請行動については、JAWAN事務局としても全面的に支援したいとのことでした。(山本)



## イオン黄色いレシートキャンペーン贈呈式に参加



イオンでは、毎月11日を「イオンデー」として黄色いレシートが発行されます。そのレシートを自分が応援したいボランティア団体の「投函ボックス」に入れると、その団体にレシート金額の1%相当の品物が寄贈されます。4月10日には、イオン香椎浜店1階の特設会場で2016年度のキャンペーン贈呈式が行われ、店長から21団体の代表者にギフトカードが渡されました。守る会は山本代表がギフトカードの贈呈を受けました。贈呈式の中での団体アピールでは、山本代表が紙芝居で和白干潟と守る会活動の紹介をしました。(河上)

## リサイクル講習会で「紙袋づくり」

5月30日(火)、会員の田中貞子さんを講師に6名参加でリサイクル講習会「紙袋づくり」を行いました。このリサイクル紙袋は以前から田中さんが干潟通信納品時の包装紙(ハترون紙)で「素敵な紙袋」を作ってくださっていたものです。袋の表面に山本さんのきりえ絵葉書などを貼り付けて、守る会の手作り印を押して出来上がりです。平面から立体は難しく不器用な私は悪戦苦闘しましたが、これは脳トレにもなります。田中さんは長く守る会で使うステキな紙袋を、このように手作りで作ってくださっていたのですね。私たちも今回の経験を活かし、リサイクル紙袋を作っていきたいですね。(河上)



**守る会問い合わせ窓口**      **ホームページ**: <http://wajirohigata.sakura.ne.jp/>

- ◎入会/ 観察会(申込等) … 山之内 芳晴    Tel. 090-8412-2663
- ◎クリーン作戦 …………… 田辺 スミ子    Tel. 090-1346-0460
- ◎広報/ 調査/ 定例会議 …… 山本 廣子    Tel/Fax. 092-606-0012
- ◎干潟まつり …………… 今村 恵美子    Tel/Fax. 092-942-5282



### 【編集】

山本 廣子・山之内 芳晴・田辺 スミ子・今村 恵美子・高田 将文

《カット》くすだ ひろこ    ★次号は2017年10月に発行予定★



【編集後記】3年前、和白干潟沿岸の種から育てたハマボウ(2株)がすくすくと育っています。昨年、30年ぶりに再会した旧知の親友に1株差し上げたところ大変喜ばれ、大事に育てて頂いています。早く花が咲けばいいな。(高田 将文)

# お知らせコーナー

## 国際ビーチクリーンアップ参加 ゴミデータ調査

世界一斉に実施される環境保護キャンペーン。  
海岸のゴミを調べます。  
クリーン作戦時に実施します。ぜひご参加ください!

日時：9月23日(土) 15:00~17:00  
集合：和白干潟・海の広場  
主催：和白干潟を守る会  
問い合わせ：090-1346-0460(田辺)



昨年の調査のようす

## 和白干潟のエコチャレンジ “アオサのお掃除大作戦”

日時：9/3(日) 13:00~15:00  
10/1(日) 12:30~14:30  
10/15(日) 12:30~14:30

集合：和白干潟・海の広場  
主催：和白干潟保全のつどい  
問い合わせ TEL090-8412-2663(山之内)

## 立花山観察会

日時：10/7(土) 10:00~14:00  
集合：香椎下原公民館前(福岡市東区下原)  
主催：山・川・海の流域会議  
問い合わせ：TEL090-2397-1424(松田)



## 定例スケジュール

定例会議(7/22、8/26、9/23)

毎月第4土曜日10時半~13時 守る会事務所にて開催

以下は参加自由です。仲間が待ってます!

クリーン作戦と自然観察(7/22、8/26、9/23)

毎月第4土曜日15時~17時 和白干潟・海の広場集合  
長靴があると便利 駐車場なし

和白海岸探鳥会(8/13、9/10、10/8)

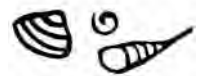
毎月第2日曜日 9時~12時 JR和白駅前の和白公園集合  
主催：日本野鳥の会福岡支部 参加費：一般は300円、中学生以下は無料 駐車場なし

会員募集中!  
年会費 個人 2,000円  
団体 5,000円  
カンパの協力お願い  
郵便振替 01720-4-23860  
和白干潟を守る会

ボランティアへのお誘い  
和白干潟を守る会のボランティア活動に参加して、新たな自分を見つけませんか?あなたの経験や知識や技術が、きっと活かされますよ!



## 和白干潟の鳥たち(その79)



アオサギ(コウノトリ目サギ科 Grey Heron) 蒼鷺 [全長93cm]



(写真撮影：三宅 僚)

アオサギは和白干潟では留鳥で一年中見られますが、夏期が多いようです。近隣の山間部でコロニーを作り、昼間に和白干潟に食事や休息に来ているようです。干潟でも堤防でも、じっと佇んでいることが多く、仙人のようです。水辺で魚を見つけるとよく狙って口ばしでつかみ、丸のみしています。首より大きなカレイなども苦しみながら飲み込んでいます。しばらくは首が膨れています。食物は魚類、両生類、爬虫類、小型哺乳類などいろいろです。夕方には上空を飛んで行きますが、飛びながら「グワー、ゴアー」としわがれた声で鳴きます。繁殖期には口ばしと足がきれいな桃色になります。(山本 廣子)